

平成 25 年度 研究紀要

研究テーマ：探究力・活用力が発揮される生活（2 年次）

「道具」 持つ・選ぶ・活かす



お茶の水女子大学附属幼稚園

はじめに

お茶の水女子大学附属幼稚園は、昨年度より「探究力・活用力が発揮される生活」というテーマのもとに研究を進めてきました。本年度はその2年目ということになります。

この研究を遂行するにあたり、より具体的な考察を進めるために、昨年度は園児たちの日常生活の中で「透明なもの」が果たす役割に着目しましたが、今年度は子どもたちがどのように「道具」とかかわっているのかに注目しました。そしてそれをめぐって子どもたちの好奇心や感性がどのように発現し発展していくのかを観察しました。

園の中には多種多様な「道具」が存在します。そのような「道具」を子どもたちは本来の用途に従って使うこともありますが、元来の目的とは全く異なった使い方をすることもあります。また、現実の「道具」に「似たもの」を新たに作り出すこともあります。このように「道具」とのさまざまなかかわりによって、子どもたち一人ひとりの心が豊かになるとともに、自分と友達との関係も広がっていきます。

この紀要には多くの事例が集められ、そこから考察が発展しています。この事例の一つ一つが大変興味深いものです。ここには子どもたちのある日の日常の生活のひとこまが切り取られて、たいへん生き生きと描かれています。教員たちは、日常の園児たちの具体的な行動を注意深く観察し、子どもたちの感情や行動をしっかりと受け止めて、そこからその子どもに応じた、あるいはその場面に応じた指示や対応を行い、子どもたちの意欲を引き出し、また成長させようとしています。

この研究紀要をお読みになっていただければ、本園の教員たちがいかに子どもたちの「探究力や活用力」を引き出し、また育てようとしているのかがお分かりになっていただけるのではないかと思います。そして皆様方のご意見やご批判、ご提案を頂くことによって私たちの研究をさらに一層深めたいと考えております。

園長 中村俊直

はじめに..... 2

I 研究について 4

研究テーマ 「探究力・活用力が発揮される生活（2年次）」

- 1) 研究方法
- 2) 「道具」というキーワードに出会う
- 3) 「道具」とは

II 子どもと「道具」とのかかわり..... 9

1) 手に持つ

事例「僕たち、消防士」「おにいさんみたいにデッキブラシでお掃除」「大工さん」

<考察> 手に持つ

2) 使ってみる

事例「水を入れる」「色水」「泡作り」「落ち葉」「みかん採り」「やってもいい?」

<考察> 使ってみる

3) 選んで使う

事例「うつし絵」「ロール紙に描く」「魔法の粉作り」「段ボールカッターの違いに気付く」「調理」

<考察> 選んで使う

4) 活かして使う

事例「キャスター付きの台」「板を敷く」「竹棒にバケツをつるして運ぶ」「調理道具を整理して置いていく」「梅採り」

<考察> 活かして使う

5) つくって使う

事例「これで、ハサミ作って!」「段ボールに持ち手をつけたら...」「おせんべいやさん」「鯛焼き器」

<考察> つくって使う

III まとめ 26

「道具」と子どもとのかかわりの姿を手がかりに、「探究力・活用力が発揮される生活」について考える

- 1) 「道具」について
- 2) 子どもと「道具」とのかかわりから見えてきたこと
- 3) 子どもと「道具」とのかかわりから、研究テーマ「探究力・活用力が発揮される生活」について考える
- 4) 今後に向けて

おわりに..... 30

おわりに

平成 25 年度の研究のまとめが、ようやく完成しました。遊びに没頭する子どもたちの姿に心惹かれ、その姿を見守ったり、援助したり、一緒に楽しんだりしてきた保育の記録です。

探究と活用という二つの言葉を心に留めて保育の日々を重ねる中で、平成 24 年度の「透明」に次いで「道具」というキーワードが浮かび上がってきました。「道具」という視点を持ちながら保育していると、「これは！」と思う子どもたちの姿が次々に目に飛び込んできました。視点を持つことで、子どもの姿の見取りが変わっていきます。そこに研究の意味がある、と実感する日々でした。

今年度、本園は大規模な園舎改修工事を行いました。通常通りの生活をしながら、数部屋ずつ工事するという方法で行いましたので、子どもたちが遊んでいるすぐそばで工事が行われるという日々が続きました。騒音や振動に驚くこともあり、大変なことも沢山ありましたが、かけがえのない経験ができたことも事実です。今年度の研究が「道具」を窓口にしたことと園舎内が工事中だったこと、この二つは密接につながっていたように思います。工事現場は道具の宝庫でした。工事の人たちが、腰の回りにたくさんの工具をつけて歩いている姿を見ると、勇者のように見えてしまいました。それは子どもたちも同じだったのではないのでしょうか。

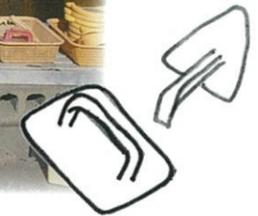
研究会で話題になったことで、今も私が気になっていることが一つあります。道具を使うことが面白くなりいろいろやってみようとする、逆に効率が悪くなってしまふということが起こるということです。例えばこういうことです。小さい熊手で落ち葉を集めるのが面白くなり、熊手を両手に持って落ち葉を集め出しました。素手で集めるほうがはるかにたくさんの落ち葉が集まるけれど熊手を使って集めることをやり続けていたということです。冷静に考えるとマイナスの方向に行っているように見えるけれど、それをしないではいけないという気持ち、そこに大事な意味があるように思えてなりません。

『自分の手ではない何かを使って自分の思いを遂げる』ということに夢中になっている子どもたちを見ると、ワクワクしてきます。子どもたちがこのような思いを抱くことの意味を、ゆっくり考えてみたいくなります。

今回も川邊教諭が撮影した写真とともに、子どもたちの姿を紹介しました。本園では、写真を活用することで、子どもたちがしぐさや表情で表していることや、場全体が醸し出している雰囲気などを、全教員で共有しながら研究を進めてきました。紀要にも写真を多く掲載することで、子どもたちの生の姿が伝わるようにと願っています。是非ご意見ご感想などをお聞かせください。

最後になりましたが、ご指導いただきました本大学発達臨床心理学講座の浜口順子先生、刑部育子先生、豊かな日々とともに創り上げた子どもたちや保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

副園長 宮里 暁美



<平成 25 年度 研究同人>

園長	中村 俊直	副園長	宮里 暁美
教諭	伊集院理子	教諭	上坂元絵里
教諭	高橋 陽子	教諭	佐藤 寛子
教諭	灰谷 知子	教諭	石川 綾子
教諭	川邊 尚子	教諭	杉浦真紀子
養護教諭	渡邊 満美	非常勤講師	鈴木由布子
非常勤講師	矢崎 朋代	非常勤講師	西垣 友恵

平成 25 年度
お茶の水女子大学附属幼稚園研究紀要
探究力・活用力が発揮される生活
— 2 年次 —

平成 26 年 5 月 30 日

発行 お茶の水女子大学附属幼稚園
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL 03-5978-5881
FAX 03-5978-5882
デザイン 岡川デザイン室
mail@okagawa.jpn.org